

---

# **異世界で無双だぜッ！**

優希

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異世界で無双だぜッ！

### 【Zコード】

Z2138P

### 【作者名】

優希

### 【あらすじ】

トラックにはねられて死んだ主人公がネギまーの世界で無双するお話。処女作なのでいたらないところが、あると思いますが、出来たら読んでください。あと、原作キャラが崩壊してるかもしれません

## 第00刀 プロlogueだぜッ！（前書き）

読み専からの脱出

## 第00刀 プロlogueだぜッ！

突然で悪いんだけどさ、今死にかけてるんだよね。

うーん、死にかけてるつてのじや語弊があるな。今の状況を説明すると、幼稚園児をかかえた俺の前には大型トラックが迫つて来ててはねられる直前なんだよな。ボール追いかけて道路に飛び出した幼稚園児がいたから、思わず飛び出しちゃつたけど。運転手寝てるっぽいし、助からねーだろうなー。この幼稚園児だけでも助からねーかなー。とか考えながらもさつきから走馬灯チックなのが頭に流れてるし。あ、やべえ、ぶつかる……

……………  
い……………  
て……………

あ、あ……………意……………し……………き、が……………

\* \* \* \* \*

「…………知らない天井だ」目を覚ましたら、うん、知らない天井だつたね。真っ白だから病院かとも思つたけど、回りに何もないし、第一俺自身ベッドに寝てないからね。上下左右前後360度真っ白で、何処までも続いてそつだから、天井ないのかも……。どーでもいいけど。

「気が付いたか？」

「うひやーえ?え?」

どこからともなく声が聞こえてきたから、ビビッて変な声出しちまつたじゃねーか、このやろー!

「…だ、誰つスか?」

「君を此処に喚んだ者だよ」

何か知らんが俺は喚ばれたらしい。てか、どこから声聞こえてるんだろ。まあ、どーでもいいけど。

「君には異世界に行つてめらいたくて、喚ばせてもらつたのだが」「あれ?これって所謂転生つてやつなのではないでしょうかーあ、でもその前に

「あの、俺つて死んじゃつたんですか?」

やつぱりこれが一番気になる。恐らく死んでいるんだからうけど聞いておきたかった。

「死んでおる。トライックにはねられて、骨が折れ、内臓に刺さり、大量出血で死んだ。幸いにも君がかかえていた園児は無事だつたようだがな。」

「そうつスか……」

あーあ、俺死んじまつたのか。ま、あの幼稚園児は助かつたようだし良しとするか。第一の人生も得られるつぽいし。

「で、どこのいくんですか？」

「……珍しいな。普通はもっと取り乱すのだが……」

「諦めが良いだけですよ。で、どこなんですか？」  
終わつた事にグダグダ言つてもしようがないしね。

「なるほど。悪くない考え方だ。君の行く所は『魔法先生ネギま!』の世界だ」

「え? あの漫画の?」

「そうだ。あの世界の人間が君の世界に入つてしまつてね。その入つた瞬間に死んでしまつたのが君でね。つまり、交換という事だよ」

なるほどプラス1したからマイナス1しなくてはいけないって話か。まあ、魔法が使える世界に行けるんだ。そいつには感謝しどう。

「あと、特殊能力を五つ渡して良い事になっている。何か欲しい力はあるか？」

「ひょーい！きたきた、待つてました！！何にしようかな…実用的なのが良いだろ？からなー、うーん。

……よし、この五つに決めた。

「天上天下の屍家の能力とあらゆる武器を扱える能力、不老の肉体、無限の魔力、無限の氣を下さい」

「これで、無双できるはず！！

「いいだろ？。その五つで間違いないな？」

「はい」

「わかった」

「ツ！」

突然の頭痛。今まで経験した事の無い頭の中にはか入り込んでくる感覚。5分にも10分にも感じられる時間が過ぎた頃に頭痛は収まつた。

「能力は与え終わった。能力によつて、姿が変わつたがたいした問題では無いだろ？。自分の姿は後で確認してくれ」

「姿が変わった？」

「ああ、前よりも格好よくなっているぞ」ビビッドー。人間の貌してないのかと思つちまつたぜ。しかも、かつて良くなつてるとか。ナイスだぜ！

「そろそろ送る時間だ」

もう時間がきちゃつたらしい。時間軸がいつ頃なのかはわからないけど、いつも無双してきます！

「では、送るぞ」

「はい。縁があつたらまた会いましょう」

戯言な感じで別れの挨拶をした途端俺の意識は深い闇に包まれていった……。

to  
be  
con-  
tinue

## 第01刀 能力確認だぜッ！

「…………知らないんじ、…………知らない空だ」

はい、皆さん。おはよー』『ぞい』ます。

二回目の「知らない天井だ」 いけるかと思つたら天井とか無くて、綺麗な蒼色をした空でした。まったく。あの能力くれた変な人（声？）ってばひどいなー。まだ15歳にもなつてない少年を森に放置とか。まあ、あの能力くれた変な人（声？）（以下神様と呼ぶことにする）もやんごとなき事情があつたに違ひない。うん、そうに違いない。とか考えながら自己簡潔させる。

改めて辺りを見回すと、もう木、木、木、木、きつといふいう場所の事を森つて表現するんだろうね！THE・現代人やつてた俺には、全く縁の無い場所だつたんだけどなー。まあ、いいや。現状確認し終わつたし、受け取つた能力の確認しよう。丁度かなり深い森のようだし修行にはもつてこいでしょ。あの頭痛の時に能力付与出来てなかつたとかいう落ちは無いだろつし。まあいつちよやつてみますか！

あ、服はちゃんと来てたよ？普通のジーパンと黒のシャツ、あと下

着だけだつたけどね。

\*\*\*\*\*

とりあえず魔力、氣を確認してみようか。前の世界では持つて無かつたから感覚が掴みづらいかもしけないけど、御都合主義がなんとかしてくれるしょ。

定番の目を瞑つて精神統一的な事をしてみる。

……あ、あつた。何か、体の中に日本の流れがあるぞ。ビバ御都合主義！ とりあえず体全体に纏わしてみようか。

うん、出来たね。何か両方同時にやつたら出来たっぽい。あれ？これが咸卦法というやつなのでは？

まあ、いいか。流れが太く、すごい勢いでながれてるから、無限の魔力と氣はあるんだろう、きっと。不老の体は現時点で確認方法がわからないから保留。

次に異能タイプの能力だね。まず屍の方の能力の方からいこうか。

屍の能力は匂いを氣で繋いで物質を創ることである。匂いは嗅覚に

よつて感じられ、五感といつもののは一つ取り除かれると他の五感の感度があがるとされる。盲目の人耳が良かつたりするのはそのためだ。

目を瞑つて視覚を取り除く

気分的なものかも知れないが瞑る前よりも鼻が聞いている気がする。

匂いの鎖を感じる

実体の無い匂いを有るものとして認識する。

氣で匂いの鎖を結合する

視界は無いので想像する。覆いつくすような刀剣。

目を開けた。

自分を護るように展開されている刀剣は壯觀だつた。  
発射するのも躊躇われるほどに美しかつた。

しかし、まだコントロール出来ていないうで刀剣が発射される。  
制御を失つた刀剣達は無差別にそこら中の木を斬り倒していく。何十もの刀剣が切る役目が終わり地面に突き刺さつた。その振動に軽くよろけるが、難なく体勢を立て直す。刀剣が地面に突き刺さつた事により立っていた砂煙が晴れてくる。

「うひやー。綺麗になつたなー」

思わず呟いてしまった。俺の周り半径100mくらいは何にも無かつた。いや、切り株はいっぱいあつたけどね。

刀剣は『消える』と念じたら消えてくれた。屍の能力は使い勝手はいいようだ。満足満足。

では最後の一つも確認しどくかね。

目を瞑る。息を吸つて体に合づサイズの剣を一つ匂いを結合して創つた。目を開けて、宙に浮いている剣を手に取る。その瞬間、まるで昔から使っていたかのように扱い方がわかつた。剣を振つてみるとまるで、手足のようだった。

「いえい！チート万歳！！」

叫んだよ。叫んだともさ。いくぜーこつからが俺のスーパー無双タイムの始まりだぜ！！！

t  
o  
b  
e  
c  
o  
n  
t  
i  
n  
u  
e

## 第02刀 修行だぜッ！

能力も確認したし、スーパー無双タイム始めようと思つたんだけどさ、不老だけど不死じゃないんだよね。せつから転生したんだからすぐには死にたくないよね？普通は。だからもう少し戦えるようになつてからスーパー無双タイムに入ろうと思う。

幸いにもこの屍の能力は想像できる範囲内で物が創れるらしい。さつきから色々創つてみてるが、布や糸まで造れてる。すごいね屍。とりあえずさつきの能力確認の時に服が破れちゃつたから服を創つてみようかな。今から修行だし動きやすい服装が良いよね。うーん。よし、…結合。うん、良い感じに出来た。少し氣を多めにこめれば半永久的に具現し続けるみたい。真っ黒の七分丈のズボンに真っ白の半袖シャツにしたんだけどね。

原作は一回流し読みしただけだからあんま覚えてないしなー。主要キャラとか、大まかなストーリーは覚えてるんだけどね……。チート転生したならやっぱ原作介入はしたいしなー。『紅き翼<sup>アラルブラ</sup>』に入ると介入したときのネギがウザそうだから、つくならテオドラの方かな？テオドラ可愛いし。運が良かつたら『仮契約<sup>パクティオ</sup>』出来るかもしがないしね。転生者の勘か何か知らないけど、何か今が『紅き翼<sup>アラルブラ</sup>』の出来る10年前な気がすんだよね。まだまだ余裕はある。ちまちま頑張つていきますか！！

\* \* \* \*

あれから10年経つた。

この10年で変わった事といえば、俺が屍の能力を完璧に制御出来るようになった事、目を毎回瞑るのが面倒だったから目の位置に包帯を巻くようになった事。刀剣の乱舞、双剣、刀、槍、拳にそれぞれ12種の技が出来た。俺なりに実戦を考えた技だけど、これから実戦でさらなる改良を加えて行こうと思う。後は、168cmという低身長にしては大分筋肉がついた。まあ見た目は全然と言つていいほど変わらないんだけどな……。畜生！少しは成長して欲しかつたぜ！

まあ、技の方は後々見せていくとしてこんなもんかな？変わったところは。

修行中の飯とかは森にいた動物達を頂いた。いつの間にか何故か森の生態系の頂点にいたんだけどね！まあ、気にしない方向で。俺がいなくなつたらいなくなつたで、また新しい生態系が出来るだろう。勝手にやってくれつて感じだな。

あと包帯で目を隠し始める前に鏡で見た顔はかなりのナイスガイでした！やばかつたね、ハーレム形成しちゃいそぐなくらいナイスガイだつたしね。説明するどだね、肩にかかるない程度のさらさらの茶髪。キリッとしたややつり目（今は隠れちゃってるけどね）、少し高めの綺麗な鼻、そして男とは珍しいシワ一つ無いスベスベの肌。

大事な事なので何度も言います。まじでナイスガイでした！

まあ、中身俺だからモテないだろうけどね……。やべ、自分で言って悲しくなってきた。いや、これ涙じゃねーし、包帯濡れてるとか幻覚だから！

じゃ、ま、とりあえずテオドラ目描してLet's GO!!。



## 第03刀 原作介入だぜッ！（前書き）

随分な駄作にしあがりましたww

良ければ読んでください

## 第03刀 原作介入だぜッ！

はーい、こんにちは。

前回テオドラのとこに行く事は決めたけど、どうやって接触しようか？実質あまり権力無いって言つても第三皇女なんだから、パツと出の俺なんかが会うのは難しいんじゃないだろうか、いや難しいに違いない。反語。

やべー。もう躊躇いやつたよ。これ『紅き翼』<sup>アラルフラ</sup>に入るしか無いのかな？でも、入つたら麻帆良でめんど臭そうだしなあ。あと俺、英雄とかそんなガラじやないし。

前世ではバリバリゲーム、ラノベ、アニメやつてたしね。男子校だったから女の子成分が欲しかつたんだよ、うん。他の奴らもやつてたし、オタクじやないよ、普通だつたんだよ！いやまじで。刀剣創れるから fateっぽく宝具創れるかなと思つたら、できなかつたね。宝具の形は真似して創れたけど能力はつけられなかつた。でも諦めないぜ！俺はいつか成し遂げてみせる！

てな訳で、『紅き翼』<sup>アラルフラ</sup>側から原作介入することにしよう。『紅き翼』<sup>アラルフラ</sup>側でもテオドラ会えるしね。少し会うの遅いけど、それまで我慢だ。あ、でも顔はちゃんと隠しこ。田を包帯で隠してるとか特徴的すぎるから後ですぐ誰か分かつちやうもんな。よし、結合。

真っ黒のローブを作成。鼻の頭まで隠れるフード付きだから安心仕

様です。魔法まだ覚えてないから何も出来ないけど、肉弾戦で十分いけると思う。何故魔法の練習をしてなかつたかと言つと、原作すら曖昧なのに魔法の詠唱とか覚えてるはず無いでしょ？『紅き翼』アラルブに入つたらゼクト辺りに教えてもらひとしよう。

10年間お世話になつた森を出て、森に向かつてとつあえず一言。

「今までありがとうございました」

何だかんだ大量に自然破壊しちやつたし、誰かの私有地だつたかも知れなかつたからとりあえず言つてみた。よし、原作介入と行きますかね。

\* \* \* \* \*

出てきたのは良いけど、戦争激しそぎ。何処行つても服装が怪しいから相手側のスパイだと思われて攻撃される。本当にスパイならこんな格好する訳ないだろうに…。まあ、全部撃退してるけどね。

それで、今は丁度近くで起きている紛争が見渡せる高台まで来たんだけどさ、ナギ達いない。『紅き翼』側ですら介入出来ないの？まじで勘弁してくれよ……。もういいや、この鬱憤はここで晴らしていい。丁度人も一杯いるみたいだしね。

「憂む晴らしのために死んでくれ」

誰にも聞こえないように一回言ってみたかったセリフを言つ。金輪際言つ事はないだろうなどね。それじゃ、行くぜ！

とりあえず、1000くらいくらい。

結合。

考えてから、発動までのタイムラグ僅か、零コソマ零零一秒。発動し、零コソマ零零一秒で発射する。そして、零コソマ零零一秒で突き刺さる。思考から着弾（着刀？）まで僅か零コソマ零零五秒。まさに、瞬間である。

刀剣が突き刺さった連合軍、帝国軍共に何が起こったか理解出来ていない。理解する程の時間も「えられず、殺されたからである。

「まだまだいるなあ。『解』！」

瞬間、あらゆる場所に突き刺さった刀剣が爆発した。結合した匂いという素粒子が飛び散ったのだ。

「いやで来てよつやへ連合軍、帝國軍共に理解した。今俺達は攻撃をていたんだ、と。

「よひしゃ、せいつ一回こへばーーー。」

相手に聞こえるように呟く。まるで自分の存在を知らせるみたい。

また刀剣が創られる。

発射され、そして突き刺さり、爆発する。

その繰り返しによって、両軍共にどんどん消し飛んでいく。

「やべー、まじで人がゴリのよつなんですねー

とか呟いてたら、いきなり巨大な雷が飛んできた。  
咄嗟に剣を創り、切り裂く。

「あふなつーいきなり誰だよー。」

「てめえの方が誰だよー。」

喋りながら、雷が飛んできた方を向くと、いたよ！よつやく見つけましたよ！ナギ・スプリングフィールドを！ついに原作介入の糸口が見つかって！やばい、嬉しそうで涙が出そうだわ。

「何だ？お前泣いてんのか？」

「え？」

頬を触つてみる。あ、嬉しそぎて本当に涙が出てたらしい。包帯から滴るほど泣くとか、恥ずかしいから急いで拭き取った。

「お前、名前は何だ？」

「教えたくない。好きじゃないんだ、自分の名前は」

変な名前だったし、嫌いだったから教えたくなかったのだよ。

「何だそりや」

ナギと話していると、『紅き翼』<sup>アラルブ</sup>の面々がやって来た。まだ仲間は近衛詠春、アルビレオ・イマ、フイリウス・ゼクトの3人しかいない

かつたけどね。

「何で戦争に手を出した?」

「苟ついてたから、憂き晴らしのためだ」

咄嗟に言い訳が思い付かなかつた。あんま、良い理由じゃなによな。  
まあ事実なんだけど。

「何か目的はあるんですか?」

アルビレオ・イマが聞いてくる。

「いや、ないけど」

「じゃあ俺らにこいつこいつ!」

「別にいいよ」

やつたー!ナギから誘つてくれるなんて願つたり叶つたりだ。これ  
で原作介入だぜ!!

ナギが他の仲間から白い皿で見られてるナギにしなこ、皿にしない。  
い。

「仲間あるのは良いが、せめて顔を見せてもらいたいな」

と詠春。あ、そういうばつはなしだったわ。まあ一回く  
らいなら良じだひう。『紅き翼』<sup>アラルブラ</sup>に入れなかつたら元も子もないし、  
とフードを外す。

「その包帯は何だ？」

「あー、これは能力のためにつけてんの。まあ、無くてもいいけど、  
有つた方がいいからや」

ナギが「ふーん」と興味無むむげに返事を返してきた。お前が聞いた  
んだろうが口ノハヤロカ。

てな訳で無事に『紅き翼』<sup>アラルブラ</sup>の仲間になることが出来ました。いえー  
い。

\* \* \* \* \*

## side ナギ・スプリングフィールド

よつ、ネギ・スプリングフィールドだ。

近くで紛争が起こうたらしくから、止めに行こうとして、現場に近づいたんだ。

そしたらよ、両軍ほぼ壊滅なんだよ！

びっくりせずにいられるかってんだ。さつきまでは、争つてたはずなんだぜ？

その瞬間何かが降ってきて、そして爆発した。は？ もしかして何かの第三戦力とか出来ちゃったのか？ 全く意味がわからねえ。

回りにいる仲間達に、アイコンタクトで聞くが、こいつらもわけがわからんらしいし。

よく見えなかつたが、何かが降つてきた方を向くと、真っ黒なفردを鼻先まで被つた怪しいやつがいた。

この攻撃は十中八九あいつの仕業だろう。

おもしれえ。とりあえず一発いつとくか！

「百重千重と重なりて走れよ稻妻『千の雷』ーー！」

キーリップル・アストラベー

いつも通りにアンチヨウを見ながら呪文を唱える。そして、唱えた瞬間に俺自身もソイツに飛んでいく。まだ気づいてねえみたいだし当たるだろうと思ってたが当たらなかつた。

いや、当たったのか？

右手に出てきた剣で魔法を斬りやがった。なんて野郎だ！詠春でも斬れないってのに！

「あぶなっ！ いきなり誰だよ…」

「てめえの方が誰だよ…」

いきなり戦争に手を出しあがつて、まじで誰だよ…

あれ？ こいつ泣いてないか？ 今から喧嘩するかも知れねーのに泣くなよ。涙とか見たくねーってのに。

「何だ？ お前泣いてんのか？」

「え？」

びつやうひ無意識に泣いてらしー。

「お前、名前は何だ？」

「教えたくない。好きじゃないんだ、自分の名前は

「何だそりゃ」

母ちゃん、父ちゃんから貰った名前を嫌いとか珍しいもつもつも  
んだな……。

ここまできて、みゅーべアル達が追いかけてきた。

「何で戦争に手を出した?」

「苛ついてたから、憂き晴らしのために

みゅーべ、状況を理解したアルがソイツに質問した。  
よしー俺は「ソイツが気に入つたぞ!仲間にしよー!

「じゃあ俺らにしこへー!」

仲間から白い田で見られたるナビ氣になー。

「別にいこよ」

「これで仲間がまた一人増えたぜー!」

「仲間にするのは良いが、せめて顔を見せてもらいたい」

そういえば、そうだな。仲間になつたんだし、顔くらい見ないとなんちうつまつてからソイツがフードを外した。目に包帯を巻いているが、十二分にかつこよさが伝わってくるイケメンだった。なんで包帯巻いてるんだろうな？聞いてみるか。

「その包帯は何だ？」

「あー、これは能力のためにつけてんの。まあ、無くてもいいけど、有つた方がいいからね」

「ふーん」

能力つてさつきのやつかな？すげー能力だつたな、アレ。まあどうでもいいか。今度喧嘩する事があればその時ちゃんと見ればいいや。スプリングフィールド

『『紅き翼』』アラルフ  
「『『紅き翼』』へようこそ。俺らは君を歓迎するぜ！俺の名前はナギ・

「近衛詠春です。よろしくお願ひします」

「アルビレオ・イマです。よろしくお願ひしますね」

「フィリウス・ゼクトじや。よろしく頼むぞ」

と首も自己紹介をしている。コイツ自分の名前嫌いとか言ってたけど何で呼ばつか?と考えてたら、

「やつだな。それじゃあ俺の事は妙雲って呼んでくれ

「おー! れからよろしくな。妙雲ー。」

こいつして妙雲は俺らの仲間になつた。

side out

\*\*\*\*\*

やつほー。妙雲です。何故妙雲という名前にしたのかは天上天下をみればわかると思うよ。

今は何か知らないけど最初に修行した森で詠春が鍋料理を振る舞つてくれるらしい。なぜこの森なのか、というツッコミはなしぜ！  
そういうえばこの辺でラカンが出てきた気がする。まあ、なんとかなるだろう。

詠春が鍋に食材を入れはじめてから数分、ナギが肉を入れ始める。

「じゃ、早速肉を！」

「ナギーおまつ……、何で肉を先に入れてるんだよ！」

鍋料理というものは、火の通る時間差があり、野菜などから入れないと肉が固くなってしまうのである。多分。

なので詠春が怒っているんだろう。  
ゼクトが、トカゲ肉でも旨いのかのう？とか言つてゐるけど、この肉つてトカゲの肉なの？

元日本人としては、は虫類の肉はあまり食べたくないんだけど……。

「バツ、バカ！火の通る時間差というものがあつてだな」

「あー、うつせーぞ！えーしゅん」

詠春がグダグダ言つてゐるけどナギのあほは止まらない。どんまい、  
詠春。

「妙雲！傍観してないで、ナギを止めてくれよ！」

詠春からのヘルプが入つたけど無視無視。

「フフ……、詠春。知つていますよ。日本では貴方のような者を『鍋將軍』…………と呼び習わすそうですね」

あれ？奉行じやなかつたつけ？将軍でいいんだつけ？  
ナギ達は、ナベ・シヨーグン！？めちゃくちゃ強そじやねー！的な  
事を話している。

「わかったよ……詠春。俺の敗けだ。今日からお前が鍋將軍だ」

「全て任す。好きにするが良い」

と、ナギとゼクトから『鍋將軍』に任命されていた。  
詠春が、鍋奉行じや…………？とか言つてゐるから、やつぱり奉行だった

「うーん。

「おお、何じやーのソース、上手いぞ?」

「ホントだー! うめえつー! ?」

ゼクトの発言にナギが同意する。

「これのが日本の誇る醤油だよ。大豆からつくれてるんだぜ。あと大根あるし」

俺が説明をする。

「これが醤油か! スゲエ! うめえつー! ?」

「ナギ、お前には日本に来た時寿司食つたる」

「うまいなら忘れんなよ。」

「姫子ちゃんにも食わしてやりた〜くらこの皿せだな」

姫子ちゃん？誰だっけ？

「姫子ちゃん……？ああ、オステイアの姫御子の」とじやな？」

「まあ……戦が終われば、彼女を皿田にする機会も縮めるやう……  
です」

「姫子って誰？」

口を挟んだ。

「ああ、妙雲は知りませんでしたね。ウースペルタティアの王女の妹の事ですよ」

「ああ、明日菜の事か。なるほどなるほど。

」ああ、あの魔力無効のあの娘ねマジックキャンセル

「」ひで詠春が違つ話題を切り出した。

「その戦だが……、やはつびにも不自然に思えてなさい

「何が？」

「何もかもだよ。お前が言い出したんだろうが、鳥頭」

あと、肉ばつか喰つてるナギに少し怒つてゐる。

次の瞬間ナギの後ろの崖から大剣がとんでくる。

が、俺が素早く剣を創り出し、大剣に向けて発射。とんできた大剣を易々と貫き、大剣を投げたと思われる人物の足下にあたり崖が崩れ、大男が落ちてくる。

落ちてきた岩の衝撃で鍋がひっくり返つたが、アルビゼクトとナギが、肉だけを器用に集めていた。

ひっくり返つた鍋は、やはり原作通り詠春の頭に乗つかつてゐる。

「食事中失礼／＼ツ！－！俺は放浪の傭兵剣士ジャック・ラカン！－！」

少し間を開けて「いつちやんつぜツ！－！」と言つてきた。

崖から落ちたのに怪我一つしないとか、原作通りバグキヤラだな。あと、落ちてきた癖に落ちた事實をスルーしてやがる。なかなかやりある。

「なんじゃ？あのバカは」

「帝国のひに詫じやなれそーだな。えいしゅ……むねー?」

「フ……フフフフ……。フ……食べ物を粗末にする者は」

「あ、詠春が壊れた」

突然立ち上がる詠春。俺は黙つて詠春に刀を渡してやる。

ラカンの持っていた大剣が真つ一つにされる。

「斬る！」

ラカンが「おほ（はー）と」とか言つてゐるけど、大男が（はーと とかキモいだけだつづー）の。

「お?詠春の攻撃凌いでるぜ」

「あの 大男 やりますよ。 見たことがあります。 ちょっと 前、 南で話題になつた剣闘士ですよ」

ナギとアルが肉を食いながら話している間にも、 105合程切り結んでいる。 何でわかるの? って疑問に答えると、 何か感じるんだよね。 きっと10年も視覚を無くすとわかるようになるんだよ。

「 ちょっと、 タンマタンマ。 あんたマジでつえな!! ちょい待たね! ?」

「 ふざけるな!! やる氣なら本氣を出せ貴様ッ!!」

まあ生真面目詠春ならキレるよな。

「 ヘッ、 そースか。 けど4対1だし本氣を出す訳にはいかんのよね。 あんた達の情報はリサーチ済みだぜつ!!」

そう言いながらラカンは懐から力プセル型の魔法具を取り出した。そして、 詠春に向かつて投げた。すると、 森の精、 火の精、 風の精、 水の精の形をした半人半靈の存在者が呼び出された。森、 火、 風の精型の者は揃いも揃つて巨乳なのに対し、 水の精型の者は貧乳だった。頭の力チューシャについているタグの通り、 詠春がロリコンだった場合の保険なのだろう。ここまで冷静に解説したけど、 正直詠春に、 殺意がわいてくる。妻いるくせにデレデレしやがって!!

「つちは前世で死んだ時、中3だつたから生乳搾んだ事無いって言つのに！…くそつー！」

「情報その1。生真面田剣士はお色気につい」

詠春が森、風の精型の者の生乳に挟まれていやがる。くそう！…羨ましい…！」

「くつ……卑劣な…！いや、何のこれしき心頭滅却すれば火もまた」

言葉の途中で、ラカンが呼び出した狸の置物を、頭にぶつけられた  
いた。ざまあみろ詠春！！

「フ、ホイ一丁あがり」

何でラカンは勝ち誇った顔してんだろ？ 少しイラッと来ちゃった  
ね。次は俺が行くかな？

「次は俺が行くわ」

「おう、任した」

「任せられた」

ナギに許可を得て、ラカンにとりあえず一発剣を発射しといった。その隙に詠春を回収、そして近くにいたゼクトに投げ渡す。

「次は俺が相手だ」

「おう…出たな、情報その4。鼻まで隠れる真っ黒のローブを被つた魔剣士は弱点不明。特徴最強」

あれ?何で俺の情報漏れてるんだろう?戦の時は目立たないように戦ってるんだけど。もしかして、目立つてたのか?

「少し違うが奇遇だな、小僧。俺も南じや無敵と滅却尊の男だ」

最強と無敵じゃかなり違う気がするけど、アホに何言っても意味無いだろうからスルーの方向で。

「心配すんな。俺は素手のが強え」

「おい、アホ。剣無しで良いのか?」

そつか、なら少し本気を出そつかな。

結合。一番初めに能力を使つた時のよつに俺を護るよつに展開された刀剣達。今は全てを制御できるよつになつた。

「じゃあ、いくぜ？」

「ちょい待つた。もう半分ぐらくなつたりしないかなーとか思うんだけど」

するわけ無いだろつ、アホめ。

「しねーよ、いけ！！」

刀剣達に進むように命令を下す。あれくらいなら、ラカンは避けてくれるだろう。あれ？何か当たつてるんだけど。やばい、ラカンが動かない。大分手加減したけど死んじやつてるかも……。

急いで近寄つて、最近ゼクトから習つた回復魔法をかけてやる。ゼクトへの弟子入りに関しては、魔法を知らないと言つたら普通に教えてくれた。『千の雷』キーリップル・アストラベーくらいなら楽にいけるようになつた。攻撃魔法を重視してたから、回復は最近習つたばかりなんだけどね。回復魔法を掛け終わり、足を引っ張りながらナギ達のいる方に引きずつっていく。体でかいから、重いなこのアホ。

連れていき、相談したところのまま放置はかわいそだから、起きるまで待つとの事。

それから3時間。

ラカンが起きた。ラカンが起きるまで、俺はずつと森の精型の者と、遊んでたんだけどね。もちろん性的な意味じゃないよ。14歳つていつたらダメって言われたんだよ。俺つて、体の年齢は14歳なんだけど、精神年齢は25なのにね。まあ、いつか機会があるでしょう。14歳つていつたらナギ達驚いてたけど何でだろう?

まあ、それは置いといて、起きて直ぐに、ナギとラカンが、何が原因か知らないけど喧嘩をし始めて、原作通り13時間喧嘩をした。結果また、この森の自然を奪ってしまったのでした。

しばらくしたら、何か知らんがいつの間にかラカンが仲間になつていたとや。

あ、この後でしゃんと森に、「ごめんなさい」といた。

to be continue

## 第04刀 本氣だぜッ！（前書き）

遅れています。

大分前に書いたやつ何ですが、あまりの酷さに驚きましたw

## 第04刀 本氣だぜッ！

はい、妙雲です。こんなには。

最近は、本格的な帝国の侵攻が始まってきた。どうやら、ただの侵攻ではなく、真の狙いがあつたらしいのだ。彼らは古き民の文明発祥の聖地『オステイア』の奪還だったのである。ててん。

という訳で、現在何かヘラス帝国の大規模転移魔法の実戦投入によつて、連合の喉元である全長三百キロに亘つて屹立する巨大要塞グレート＝ブリッジを攻撃されているらしく、俺達『紅き翼』アラルフは助けに行くんだと。喉元ならちゃんとガードしどけつて話何だけどな。まあ、俺の情報が漏れているのがラカンによつて分かつたから、遠慮せずに戦えるからいいんだけど。

アルギュラーの辺境に居たんだけど、そこからグレート＝ブリッジまで遠すぎ。結構時間がかかつちまつたよ。

「よし！ 今から最前線行つて大活躍すんぞ！」

「なあナギ、本気でやつていいんだよな？」

一応確認しつつ。後で何かあつたらナギのせいにするためだ。

「良いに決まつてんだろ。わざと行くぞ……」

結合。とつあえず、100mちよいの大きな剣を3つ創る。んでもつて、発射。剣が突き刺さるとズドン、と地響きがする。

「んでもつて『解』……」

剣が爆発した。グレー<sup>T</sup>ト=ブリッジには被害が出ないよう操作はしてあるからどんどん行けるぜー！

その爆音を合図に他の『紅き翼』<sup>アラルブ</sup>の仲間が動き出す。アルと詠春は、あなたもバグキャラでしたか……とか言いながら戦いにいつたけど酷くね？そりやチートだけどさ。あ、そういうや詠春の神鳴流の剣術欲しいな。あとで見に行つてみよつと。

結合。よし、準備は十全。覚悟は十分。行こつか。

瞬動でグレー<sup>T</sup>ト=ブリッジを移動していく。刀剣達は俺に着いてくれる。敵を見つけたら殺す。すなわちサーチ&デストロイ！！時にはとばし、時には手に持つている剣で殺す。

虚空瞬動で高めの岩に登り鬼神兵と戦艦を見渡す。『紅き翼』<sup>アラルブ</sup>の皆

が戦艦を乗り移りながら、一隻ずつ落としている。

「みんなーー避けろよーーーー！」

忠告しといったから、大丈夫だろ。残りの刀剣達よ、いけ。  
ものすごい破壊音をがしてゐる。耳の鼓膜が破れそうだ。

「『解』」

さらに爆音がプラスされた。しばらく耳がキーンとするんじゃね?  
とか考えてたら、ナギ達から怒声がとんできた。「つるさいなあ、今  
耳がキーンってしかけてるのに。」

「殺す気かッーーーー！」のアホが！！

俺以外の『紅き翼』アラルフの総意りしげので謝つておく。

「すまん！－－悪かった－－！」

遠いから声を張り上げてるのもあるんだらうけど、埃が喉に入つて  
きて、喉が痛い。泣ける。ぐすん。

おー、戦艦と鬼神兵がそれぞれ、最初から8割、10割消えたな。  
まあ鬼神兵は今いるのは全部ブツ飛ばせたようだな。満足満足。あ

とは、詠春の神鳴流を見ながら、練習してみるか。

あれ？詠春もう戦つてないんだけど。

「詠春。もう戦わないの？」

「ああ、妙雲が大体倒してくれたから、もう大丈夫だろ？。後はナギ達がやつてくれるだろ？」

「あーちくしょう！ハツチャケすぎだよ、俺！神鳴流見たかったのに！」

「えー、マジかよ。神鳴流覚えよつと思つたのに！」

「覚えるつて……。そんなに簡単な流派じゃないぞ。覚えたいなら今度教えてやるつ

教えてくれるんだと。前の世界みたいに平和じや無いから、手段は持てるだけ持つときたいんだよね。

「頼むよ」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2138p/>

異世界で無双だぜッ！

2011年2月24日02時30分発行